

ながの 社会福祉士会 ニュース

No. 130

発行日：2012.4.27

発行：社団法人長野県社会福祉士会
 会長：関 裕一
 事務局：〒380-0836 長野市南県町685-2
 食糧会館 6 階
 電話：026-266-0294
 F A X：026-266-0339
 メール：hope@nacsww.com
 編集：広報編集委員会
 ホームページ <http://nacsww.jp/>

Nagano Association of Certified Social Workers

目次

巻頭言	1	“長野県地域生活定着支援センター” を開設しました	4
明日の福祉を考える 公開セミナー in 信州	2	第6回 福祉まるごと学会報告！	
あのとき！このとき！ これまでの歩みを振り返って！	2	第10回 定期総会報告！	4
20周年記念 懇親会 in メルパルク長野	3	高齢者虐待対応の検討が本格的に始まる	5
特技！出し物！大募集	3	孤立死を見逃さない地域づくりに向けて	5
20周年記念プロジェクトメンバー からのメッセージ	3	今後の予定	6
		編集後記	6

巻頭言

『おかげさまで二十歳になります！』

顧問・20周年記念事業PT代表 小山 順子

1992年（平成4年）11月、みなさんは、どこで、何をしていましたか？

この時、長野県社会福祉士会は31人の会員で任意団体としてスタート。何と、日本社会福祉士会より4ヶ月早く設立しています。以降の主な歩みについては、別ページをご覧ください。2012年（平成24年）めでたく20周年、人間で言えば二十歳を迎える事になります。会員数は868人（平成24年2月末）です。

ここで、今回のタイトル「二十歳になります」の意図がおわかりいただけたと思います。当然のことながら個人の事ではなく、長野県社会福祉士会が二十歳になるということです。人間でいえば二十歳が成人と認められる事なのですが、実は当会は2008年（平成20年）に任意団体から社団法人に移行し、会員数500人を超した時点で、「法人格取得」＝『『成人』として認められた』、と位置づけて既に一度みなさまにご披露とお祝いをいただいています。しかしながら、やはりこの20年という区切りは大きな意味を持っていると感じています。

特に今年は「社会福祉士および介護福祉士法」という兄弟法でできたもうひとつの国家資格「介護福祉士会」の長野県介護福祉士会さんともめでたく20周年を迎えられる年でもあります。

同じ県にある両会が設立時期を同じくし、設立20周年の記念式典と公開セミナーを合同で開催するという事は、全国でも類のない事で、この開催をたいへん誇らしく思っています。

講師には鎌田先生を始め、日本社会福祉士養成校協会副会長市川先生、日本介護福祉士会石橋会長、そして、われらが元会長宮島さんと、すばらしい方達をお呼びしています。

「その人がその人らしくあり続けるために」人間を支援する国家資格を有する専門職として、私たちの心の底に何があるべきなのか。どのような価値観、倫理観、知識、経験、共感する心に立脚しているのか、医療・福祉・介護等専門職間の連携・役割・期待を、講師の方々と共に考え、熱く語り、聞き、感じませんか？会場は1,000人収容可能なホクト文化ホールです。

ひとりでも多くの仲間と、この歴史的瞬間の立会人になりましょう！

引き続き行われる総会では一般社団法人への移行について重要な議決がありますし、会場を変えて行われる祝賀会では、隠し芸のご披露があり、この人にこんな才能が！という驚きと感動が待っています。未来永劫語り継がれるであろう、5月19日、共に集い、熱く燃えましょう！みなさんの元気な顔に会えるのを楽しみにしています！

明日の福祉を考える公開セミナー in 信州

県社会福祉士会と県介護福祉士会は、1992年11月に設立し、2012年に設立20周年を迎えます。20周年を記念して、5月19日(日)にホクト文化ホール（長野市）を会場にイベントを開催します。記念すべき“20周年”をみんなでお祝いしましょう！

当日、前半30分は、『20周年記念式典』を催し、その後は、一般の方も参加しての『明日の福祉を考える公開セミナー in 信州』を開催します。

日時：5月19日(土) 14時00分～（受付：13時30分～）
場所：ホクト文化ホール 中ホール（長野県県民文化会館）
定員：1,000人 入場無料

■ 県社会福祉士会・県介護福祉士会 20周年記念式典 ■
14時00分～14時30分
20周年を迎えて 主催者あいさつ、来賓祝辞（長野県知事等）など

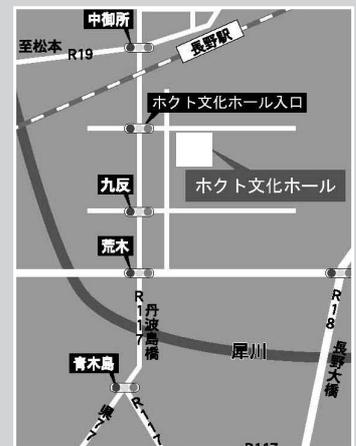
■ 明日の福祉を考える公開セミナー ■
14時40分～15時50分 記念講演
『がんばらない、あきらめない、なげださない！』
講師：鎌田 寛氏（諏訪中央病院名誉教授）

16時00分～17時30分 パネルディスカッション
『その人がその人らしくあり続けるために！！』
～ 社会福祉士・介護福祉士専門職の役割・期待 ～
【パネラー】

阿部 守一氏（長野県知事）
市川 一宏氏（日本社会福祉士養成校協会副会長・常務理事、ルーテル学院大学・学長）
石橋 真二氏（社団法人日本介護福祉士会 会長）
宮島 渡氏（認知症介護指導者／高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ施設長）

■ 第11回 長野県社会福祉士会総会 ■
17時30分～18時10分 平成23年度決算報告について、法人移行について 他

■ 祝賀会 ■（会場：メルパルク長野）
19時00分～ 長野県社会福祉士会20周年記念 祝賀会（会費：5,000円）※ノンアルコールの方は4,000円（予定）



会場案内図

あのとき！このとき！これまでの歩みを振り返って！ ～20周年を迎えるにあたって～

『成人式＝設立20周年。うーんあれから20年かー……』設立時のメンバーに呼びかけた時の反応です。当時はあまりにも少数派、だから皆で徒党を組んだのか？。いや違う。ソーシャルワーカーをめざしただからこそ一緒に学びあう人たちを必要とした。20年後の今も同じ筈である。更なる20年後をめざし、会員としてのプライドをもって理想を語り合おうではありませんか。 ■小池 正志

参加呼びかけ人を快く引き受けていただいた皆さんに感謝です。久しぶりに声を聞く方も多く、思い出話とともに、それぞれの現場で頑張っている様子を伺うことができ、とても刺激になりました。こんな時間を持てるのも県士会に入っていればこそです。私のような「ごぶさた組」の皆さんもぜひ集い、「5年後の夢」を語り合しましょう。 ■新村 潤

ひとりの力はちいさいけれど、社会福祉士の資格を持つ仲間が集まればどんなことでもできそうな気がする。年齢も経験もさまざま。職場もしかり。それぞれの人に仲間がいてつながりがある。もったいないよ。このつながりを活かさなきゃ。学び合わなきゃ。5月19日 たくさんの人に会えるのを楽しみにしています。 ■黒岩 秀美

20周年記念 祝賀会 in メルパルク長野

長野県社会福祉士会設立20周年を記念して、来賓の皆さまも交えての祝賀会を行います。

「祝賀会では会員のみなさまの親睦を深める意味で、「特技の披露」を募集します。この人に、こんな特技があった。という驚きの発見を皆様と共に共有し、楽しみたいと思います。

みなさまからの申し出を受け付けます。その他、伝統と歴史を後世に伝えるべく20周年記念スライドショーを予定しています。懐かしの秘蔵映像、若かりし頃の、あの時、あの瞬間がよみがえります。そちらもお楽しみに。会場でお会いしましょう！

● 会費：5,000円 ※ノンアルコールの方は4,000円（予定）

● 申込：3月24日の総会出席報告時に『参加』に○をされた方は申込が完了しています。これからの申込は、FAX又はメールで『20周年記念 祝賀会申込希望』と明記し、氏名、住所をご記入の上、20周年に寄せた思いも添えてお申し込みください。

特技！出し物！大募集

祝賀会での特技、出し物を募集します。

例) サクソフォンの演奏、二胡の演奏、ギターの演奏など ○曲 ○分程度
手品、アクロバット演技、腹話術など ○分 などなど

会員の知らない一面をレセプションでアピールしてみませんか？

20周年記念のレセプションでは、楽しいひと時を皆さんと一緒に過ごしたいと思っています。特技をお持ちの方、出し物ができる方は、迷わず、恥ずかしがらず、躊躇せずに奮ってご応募ください。皆さまの特技！出し物をお待ちしています。

【応募方法】

下記内容を記載の上、事務局にメールまたはFAXにて、5月7日(月)までにご応募ください。必要に応じて、担当者から内容の確認などをさせていただきます。

- 氏名・連絡先（電話とメールアドレス） ※連絡が取れること
- 特技・出し物の内容と発表に要する時間（おおよその目安）
- 会場で準備する必要があるもの（原則はご自身で準備をお願いしますが、テーブルやイス、マイクなど会場で準備すべきものは事前にお知らせください。）



20周年記念プロジェクトメンバーからのメッセージ

私は、この会を通じて、職種に関わらず多くの人に出会うことが出来ました。また今回は、プロジェクトメンバーとして関わらせていただく中で、20年前から今日に至る先輩会員の熱い思いを強く感じています。

私と同じように入会して5年未満の皆さん、入会しているからこそ得られるもの、伝えられることがたくさんあると思います。まずは、20周年イベントで新しいつながりを作ってみませんか？当日、多くの皆さんにお会い出来ることを楽しみにしています。 ■林部 智子

春の選抜高校野球大会、石巻工業高校の阿部主将が行った「高校球児ができること、それは全力で戦い抜き、最後まで諦めないこと」という選手宣誓を聴き、自分の立ち位置を理解し、今すべきことを堂々と言える姿に感動を覚えました。と、同時にこれまでの自分自身の社会福祉士としての在り方に恥ずかしさも感じました。自分自身を省みる一つの契機とするためにも、今回の記念事業が成功するよう全力で頑張ります!! ■松本 一輝



“長野県地域生活定着支援センター”を開設しました!

当会では、平成24年4月に長野県からの委託を受けて「長野県地域生活定着支援センター」を当会事務局内に開設し、事業を開始しました。

■地域生活定着支援センターとは??

高齢や障がいにより、福祉的支援を必要とし、かつ帰住予定地が確保できない刑務所等の矯正施設から退所予定の方々の社会復帰を支援することを目的に、各都道府県に1か所設置されているものです。

センターでは、保護観察所、刑務所等矯正施設、市町村、福祉施設等福祉サービス事業者、障害者総合支援センターやその他の関係機関等と連携し、業務を行います。

■業務内容は??

<p>① コーディネート業務 保護観察所からの依頼に基づき、矯正施設の入所者を対象に、退所後に必要な福祉サービスのニーズ内容を確認し、受入れ先事業所の斡旋や福祉サービス利用等に必要の手続きの支援などを行います。</p>	<p>③ 相談支援業務 保護観察処分を受けた方や矯正施設を退所した方の福祉サービスの利用に関して、本人やその関係者からの相談に応じ、助言その他必要な支援を行います。</p>
<p>② フォローアップ業務 コーディネート業務の斡旋により矯正施設退所者を受け入れた事業所からの相談に応じ、助言等を行います。</p>	<p>④ 啓発活動など ①から③の業務のほかに、必要な支援業務や啓発活動等を行います。</p>

長野県地域生活定着支援センター

住所：〒380-0836 長野市南県町685-2 長野県食糧会館 6F（長野県社会福祉士会内）
 TEL：026-217-0510（直通） FAX：026-266-0339
 開所時間：月～金曜日 9:00～18:00（祝日及び12月29日から翌年1月3日までを除く）
 職員体制：センター長兼支援員1人・支援員2人・事務員1人

— 3月24日(土) 第6回 福祉まるごと学会報告! 第10回 定期総会報告! —



塩尻市えんぱーくにて、「第6回福祉まるごと学会」が行われました。テーマは『今ある貧困を考える』千葉明德短期大学の山野良一先生に「子どもの貧困～この国の貧困と子どもたちの未来～」と題してご講演をいただきました。

先生は元児童相談所職員の現場での経験を含め貴重なお話をいただきました。貧困は貧困だけに終わらず、虐待や孤立、ひとり親家庭など様々な問題と絡んでおり、社会福祉士としてどのようにかかわっていけるか考えさせられる講演でした。

第2部として、「様々な現場からみる貧困」と題して、シンポジウムが行われました。コーディネーターに当会の内田副会長、助言者として山野先生にもご参加いただき、スクールソーシャルワーカーの池内さん、社会福祉協議会の押田さん、児童相談所の雅楽川さんと当会の会員3名による現場での貧困問題に対する取り組みや現状の発表がありました。社会福祉士が配属されているどの分野においても貧困問題とその他の問題が絡み合っており、それぞれの問題を解決するために各所に配置されている社会福祉士の横のつながりが大切であると実感しました。 ■佐久地区運営委員 樋沢

（社団）長野県社会福祉士会 第10回定期総会を塩尻市えんぱーくで開催。

関会長の開催の挨拶後、小池達也会員を議長に選出。慎重な審議の上、57名の出席及び書面表決・委任状により、平成23年度補正予算・平成24年度事業計画・平成24年度予算・規則の改正が原案通り承認された。又、緊急動議が提出され「孤立死を見逃さない地域づくりに関する声明文」を発表し、「孤独死ゼロ（0）プロジェクト」の立ち上げを満場一致にて承認された。

■南信州地区運営委員 乾



高齢者虐待対応の検討が本格的に始まる

～協働～
本会・長野県・
県弁護士会



(3月21日 第1回 検討会議の様子)

高齢者虐待防止法の施行により、市町村が高齢者虐待の第一義的責務を担い、都道府県は市町村の助言等を行う役割が位置づけられ、各地域で高齢者虐待対応が進められてきました。

こうした中で、法施行6年目を経過し、市町村では人材育成、マニュアルの整備、コアメンバー会議等による虐待認定など、数多くの課題が明確になってきました。

県外では、これらの課題を解決するために、行政と弁護士会、社会福祉士会が協働で法的あるいは福祉的助言が受けられる仕組みを構築しています。

これら先駆的な取り組みを参考に、本会を中心にして、長野県と県弁護士会との協働で長野県における高齢者虐待対応の実践力強化と体制整備を図ることを目的に事業を展開します。

～ 取り組みの予定 ～

本会と長野県、長野県弁護士会が協働で検討会を開催し、次のことを実施します。

- ① 市町村における高齢者虐待対応の実態把握を行います。
- ② 市町村及び地域包括支援センター職員向けの研修を協働で検討し、実施します。
- ③ 弁護士及び社会福祉士による市町村支援の体制について検討し、整備します。
- ④ その他、高齢者虐待対応に関する課題について検討していきます。



担当：高齢者虐待対応プロジェクト

孤立死を見逃さない地域づくりに向けて

NHKや信濃毎日
新聞で取り上げ
られています！

総会で『孤立死を見逃さない

地域づくりに関する声明文』を決議

県外の孤立死の報道が相次いだことを受けて、孤立死ゼロプロジェクトを3月11日に緊急に立ち上げ、3月24日の総会で声明文を決議しました。

これまで、単身高齢者の「孤立死」の問題が多く取り上げられてきましたが、最近のケースは単身介護者や養育者のいる世帯で起きた「孤立死」であったことを重く受けとめる必要があります。

こうした世帯は、当事者が自ら声をあげることができなく、家族はひとりで頑張っていたり、抱え込んでいたりするため、行政や福祉サービスにつながりにくい状況があります。

そして、地域の支援も「家族がいるから」という理由で見逃されやすく、結果として孤立死のリスクが潜在化してしまう状況が起きています。

孤立死は、自らの地域にも発生し得る緊急性が高いものと捉え、「孤立死ゼロ(0)プロジェクト」として以下のことに取り組んでいきます。

- 実行委員会の設置
- 孤立死110番の実施
- 孤立死対応チームの設置及び派遣
- 孤立死の現状把握、原因分析及び防止策の検討
- 取り組みの評価・検証・啓発・報告

この取り組みは本会だけではなく、自治体や司法、医療、福祉関係者、更には地域関係者や地域住民などの協力、連携が不可欠です。

また、会員一人ひとりのご協力も必要となります。本取り組みについて、本会ホームページ (<http://nacsw.jp>) に詳細を掲載しますので、ご確認ください。

担当：孤立死ゼロプロジェクト



(3月11日 第1回 検討会議の様子)

一斉送信メール！ ～情報を配信します～

平成24年から“一斉送信メール”に切り替え、最新の情報を事務局から会員の皆さまに伝えています。一斉送信メールの登録をしていただきますようお願いいたします。（登録方法はホームページを参照）

◆一斉送信メールで情報を発信してみませんか？◆

孤立死ゼロプロジェクトの立ち上げにあたって一斉送信メールで情報を発信し、メンバーの募集をしました。会員に伝えたいことなど、一斉送信メールを活用することができます。

送信希望の場合は、まずは事務局まで！

◇新刊のお知らせ◇



社団法人日本社会福祉士会編集の「滞日外国人支援の事例から学ぶ多文化ソーシャルワーク」が中央法規出版より定価2,600円（税別）で2012年3月31日発刊の運びとなりました。この分野で、多文化ソーシャルワークの定義、日本におけるニーズ、滞日外国人をとりまく現状、

社会資源、生活の現状と課題、実践事例と留意点まで網羅した書物は他にありません。仕事の手引き書として、研修用テキストとして使っていただける、自信を持って推薦できる良書です。

推薦者：小山 順子（本書編集委員長）

今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ（<http://nacsw.jp/>）をご確認ください。

日程	時間	場所	内容
5月中旬	未定	長野市内	第2回 高齢者虐待対応検討会議
5月14日(月)			成年後見人養成研修申込締切日
5月19日(土)	10:00～12:00	中央隣保館（長野市）	第1回各種委員会・PT会議
5月19日(土)	10:00～12:00	中央隣保館（長野市）	第1回ぱあとなあ地区運営委員会
5月19日(土)	14:00～	ホクト文化ホール（長野市）	20周年記念式典・セミナー・総会
5月20日(日)	9:30～12:00	長野市内	運営委員会
6月2日～3日	※締切：5月10日	岡山	日本社会福祉士会全国大会
7月1日(日)	10:00～17:00	松本市総合社会福祉センター	成年後見人養成研修（1日目）
7月下旬	未定	中信地域（予定）	高齢者虐待対応研修（2日間）
7月下旬	未定	全県を対象	高齢者虐待専門職チームの発足

編集後記

長野県社会福祉士会が設立20周年を迎えます。この20年間、バブル経済崩壊後とはいえまだ日本経済に余力が残るころから、リストラ、阪神淡路大震災、学生の就職難、リーマンショック、東日本大震災等々、時はめまぐるしく変化してきました。それら社会変化の中で、私たち社会福祉士と社会福祉士会は「ひとりひとりがそのひとらしくあり続けることを支える」ために最前線で活躍してきたのではないのでしょうか。

そして最前線で人の権利を護るためには、社会福祉士は社会福祉士会に所属し、最新情報を得たり、ネットワークを構築することにより、より効果的な働きができるはずで、20周年を迎えるにあたり、「会員それぞれが会を自分のものとして捉えられる組織に」することにより、これから先も私たち社会福祉士会会員は、社会福祉の最前線で自信と誇りを持って働いていこうではありませんか。

(い)



本号のタイトル『ながの社会福祉士会ニュース』の文字は、20周年を記念して、1993年8月10日発行の広報紙第8号の復刻として使用しました。